

国立大学法人山梨大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」をキャッチ・フレーズに、地域社会の中核として、地域の要請に応えることができると同時に世界を舞台に活躍できる、幅広い教養と深い学識、創造性、自律性、倫理観を持つ人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、未来世代にも配慮した教育研究の推進や国際社会で活躍する人材の養成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、医学部と医学系大学院を融合させた「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム」を開始するとともに、医・工・農の融合研究の推進と研究成果の臨床応用を推進するため「融合研究臨床応用推進センター」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、科学技術分野の拡大・多様化や産業界等における人材ニーズを踏まえた教育研究組織の改革を進める戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成24年度においては、生命環境学部の学生受入れを開始するとともに、他学科との相互乗り入れ科目を開設するほか、教育人間科学部では教職支援室の設置、また、工学部では工学部基礎教育センターを設定するなど、新しい教育研究組織での教育を開始している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化、③多様な教職員の活躍の促進)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 女性研究者への支援の一環として、近隣保育園と連携して、一時預かり事業、休日保育事業、病児・病後児保育事業を割引料金で利用できるようにしているほか、ライブイベント中の女性研究者の研究活動を支援する女性研究者サポーター制度には学生も登録している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「外部資金獲得特別評価」を 6 月期の勤勉手当に反映するなど外部資金の増額に努めており、外部資金比率は法人化以降、最も高い 8.7 % (対前年度比 1.1 ポイント増) となっている。
- 医療用消耗品の在庫状況等を記録する物流管理データを活用し、購入している医療材料・衛生材料の見直しを行い、経費節減への取組みを進め、前年度と比較して年間約 470 万円を削減している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④環境配慮〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 16 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 博士課程教育リーディングプログラム「グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」において、全ての講義（約 40 本）をいつでも自発的に受講できる e-learning システム、実験機器を集中した共通ラボ、自由に討論できる場としてのカフェを設置するとともに、異分野の学生、教員とが議論する月例研究発表会を毎月開催しており、互いが討論しながら相乗的に発展できる機会を提供している。
- 医師免許と博士号の両方を 7～9 年で取得する基礎研究医の養成を目的とし、医学部と医学系大学院を融合させた「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム」を開始している。
- 英語授業の改善を図るため英語を母語とする外国人留学生 5 名をスチューデント・アシスタントとして配置し、アンケートでは受講学生の 65 %が授業中積極的に英語でのコミュニケーションができたと評価している。
- 教員志望学生の意識改革、教員採用相談等のキャリア形成を支援するため、4 名の公立学校校長経験者を支援スタッフに加えた「教職支援室」を設置し、キャリア相談を随時受け付けるなどの学生支援体制の充実を図っている。
- 民間企業の学術文献データベースを導入して、研究者自らの研究領域におけるポジション及び研究水準の把握を容易にしているほか、競争的資金の獲得状況、論文の被引用数等の状況、特許出願件数等について、大学独自の分析を実施している。
- 医・農・工の融合研究の更なる推進と研究成果の臨床応用の取組みを強化するため、「融合研究臨床応用推進センター」を設置し、医農融合研究の花粉症プロジェクト等を実施している。
- ワイン科学研究センターがワイナリー等と連携して実施している「ワイン人材生涯養成拠点」事業の受講者の関わったワインが、平成 24 年度国産ワインコンクールの金賞受賞ワインの 50 %を占めていること、ヨーロッパの「ワイン法」を甲州ワインがクリアし、全国で初めてヨーロッパに輸出されていること等が高く評価され、全国イノベーション推進機関ネットワーク主催の第 2 回地域産業支援プログラム表彰事業の優秀賞を受賞している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成のため、「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」事業を開始し、「地域がん特進コース」の準備を進めるとともに、連携大学である信州大学と共催でセミナーを開催している。

(診療面)

- 最先端の治療方法の確立のため、MRガイド下集束超音波治療装置及び強度変調放射線治療装置等の最新医療機器を導入し、これらの装置を活用した治療を山梨県内で初めて実施している。

(運営面)

- 大規模災害発生に備えて、災害派遣医療チーム（DMAT）を2班追加したほか、防災トリアージ訓練を実施するなど、医学部と附属病院が一体となって災害医療体制の充実・強化に取り組んでいる。